

「次の調査審議事例」

検討資料（企画部会）

1	課題整理一覧表	．．．．．	P 1
2	区民会議委員等からの提案課題（追加分）	．．．．．	P 2
3	区民会議委員等からの「高齢者」に関する提案課題	．．	P 4
4	企画部会検討資料1「事例3の提案に向けて」	．．．．．	P 7
5	第5回麻生区区民会議への調査審議事例の選定に 向けての提案	．．．．．	P 8

## 課題整理一覧表

テーマ 心が響きあう地域づくり (28 課題)

事例 1 「こどもの見守り」に関する課題 (3 課題)

事例 2 「地元農産物と地域の交流」に関する課題 (3 課題)

\* は、平成 19 年 3 月 31 日付けで委員から新たに提案された課題

事例 3 「高齢者」に関する課題 (7 課題)

2. 迷惑行為の減少

3. 協同活動できる場の提供

4. あさお区民憲章

5. 地域福祉の担い手である市民活動が生きる仕組みづくり6. 高齢者の安全な生活対策

7. 文化活動支援

8. 防災避難訓練の実施

9. コミュニティバスの運行

11. 災害、防災時における障害者への対応

12. 地域住民同士の連携強化と地域教育力の向上

13. 区民活動への支援強化

14. 地域のつながり「あいさつ」が始まり

15. 麻生の水に親しみ、水を楽しもう

16. 地元農産物が結ぶ地域の交流

17. 女性たちのための子育てと両立できる再チャレンジ支援

18. 地域に生かす区民の力 (事例 1 と事例 3 の重複)

19. 麻生区ガイドボランティアの養成と認定と活用

20. (財) 川崎市生涯学習財団分室廃室後の活用

21. 学校適正規模適正配置検討対象校の統合後の廃校を市民活動拠点として活用

22. 麻生区での食育の実施23. 市民の交流

25. 麻生区の地域通貨の発行

26. 都市住民と農業従事者の共栄

27. 市民活動団体にとって大きな課題「資金」を提供する制度としてパーセント法の導入

\* 29. 高齢者の多様な居場所づくりと地域づくり\* 30. 「高齢者・のんびり・くつろぎ・生きがい広場」の創設(ナイスミドルズ プラザ)\* 31. 「災害、防災時における障がい者への対応」を軸にした区内の災害時の救援対策の確認  
及び区内全域における防災に関する取組、障がい者や高齢者への対応への検討

\* 32. ご近所の美化清掃を通じて地域のつながりを

## その他・交通環境等に関する提案 (4 課題)

1. 通勤時間等の交通渋滞の解消

10. 交差点における右折、左折の増設

24. 自転車にやさしい道路の整備

28. 芸術作品の展示ギャラリーの設置 (18.10.13 区民からの提案課題)

## 区民会議委員等からの提案課題(追加分)

	分野	課題名	内容	現状の区民の取組み	課題の解決策(案)
29		高齢者の多様な居場所と地域づくり	<p>現在、高齢者に対する施設として、「老人福祉センター」や「老人いきいの家」があるが、必ずしも十分ではないように思われる。</p> <p>高齢者の生活や生き方が多様化している中で、地域社会に積極的に関わりを持ちながら生活していくためには、多様な選択肢と居場所を用意し、高齢者が生き活きと元気に活躍することで、地域社会での存在に眼が向き、その結果として標記の心が響きあう地域づくりに繋がってくるにちがいない。アパート、マンション等の空き室や商店街の空き店舗などを活用したグループ・ホーム的な居場所にし、地域活動や市民活動等の拠点を創る。</p> <p>また、高齢者の地域での居場所の快適性は、様々な人々との出会いや交流を生み出し、地域社会を潤してくれるにちがいない。</p> <p>特に、2007年問題と指摘されている団塊世代の地域での受け皿づくりが急がれる。</p>		
30		「高齢者・のんびり・くつろぎ・生きがい広場」の創設(ナイスミドルズ プラザ)	<p>・必要とされる高齢者対策の諸策にはいろいろあるが、まずは基本的なこととして、次の対策が求められているのではなかろうか。</p> <p>・高齢者が、自由に集えて、生きがいを求めているいろいろな活動ができる場(施設・プラザ)を創設する。～地域の廃校・空き商店などの活用。</p> <p>・いわゆる老人会の会議や行事などのように、町会の集会所に目的別、集団別に集まって何かをするといったものではなく、オシャベリをしたくなったり、将棋や囲碁などをしたくなったりから相手欲しいとかいった、個人的、自主的に、勝手気ままにフラッと寄って暇つぶしができる機会と場が、一部深刻なこととして求められているのではなかろうか。</p> <p>・例えば一人暮らしの人の寄る場として、孤独感や淋しさからの解放や、情報交換等によるボケ防止とか、マイペースの発想や行動を保障できることは意義深いことと考える。</p> <p>・存在感が広がり、人の溜まり場として輪と和が広がれば素晴らしい。</p>		

	分野	課題名	内容	現状の区民の取組み	課題の解決策(案)
31		「災害、防災時における障がい者への対応」を軸にした区内の災害時の救援対策の確認及び区内全域における防災に関する取組、障がい者や高齢者への対応への検証	あいさつから始まる日頃からのご近所づきあいや、それぞれの自治会町内会単位のおつきあいが、心が響きあう地域づくりの基本と考え、災害時こそそれが最も必要になってくる。そのことから、課題整理一覧表の「11. 災害、防災時における障がい者への対応」を軸にした区内の災害時の救援対策の確認及び区内全域における防災に関する取組、障がい者や高齢者への対応への検証を提案する。		
32		ご近所の美化清掃を通じて地域の繋がりを	「あいさつ」に並んで、「身の回りの美化整備」はご近所との連携を深める身近なツールとの認識。 ジュリアーニの「割れ窓理論」にあるように、町中のごみ、落書き、不法投棄などを放置しないで(都度繰り返し)取り除くことが、更なる廃棄や犯罪すら防止する効果があるという。 公共の場所である、麻生川を始め区内10河川の周囲並びに公園などを対象とした周辺住民・行政協働による継続的の美化整備。 更には麻生川(モデルにそて)の親水性への整備(行政)と地域住民主導による美化整備の継続的なフォローアップ(参考:委員提案 2、15)	区(行政)の取組み(推測) ・年に一度「市民環境美化運動日」を設定し住民への参加を呼び掛ける(袋支給)。 ・住宅地内小公園の美化については「公園緑地愛護会」に報償金を出して委託 ・河川の放置自転車除去、樹木伐採、除草等を土木センターにて予算範囲内で実施 ・麻生川親水性関連では「試行区民会議」で取り上げハード整備一部実施中 区民等の取組み(推測) ・ご近所の美化整備は基本的には自主的活動で、やる人はやる、やる所はやる、で濃淡あり ・市民美化運動日への参加 ・新百合ヶ丘駅周辺での市民の会「落書き消し隊」による活動 ・麻生川に関しては、「区づくり白書」(1998)、「麻生川せせらぎカルテ」(2005)、「試行区民会議」(2006)等にて区民意見が出され各種提言がある ・ロータリークラブによる麻生川での看板設置など ・環境局所管の緑化活動の一環として区内にも緑愛護団体が10件ほどある。	これまで取り組みのない新しい解決方法、アイデアなど ・このテーマ(標題)の趣旨と具体的実践案・事例を区民に説明し呼び掛けて、区内全域での、それぞれの場での住民参加・協働型の継続的活動とする。一部の有志のみならず区民全体を巻き込む運動とする。(区民会議での具体案の検討、その広報と既存団体などとの連携及び活動のフォローアップ) ・区民会議では地域住民より解決アイデア、必要経費案を汲み上げ、協働推進事業予算枠にて即時対応するよう区に要請する。 ・河川・公園など公共施設・場所に関しては、周辺自治会、学校、商店・事業所、地域団体を包含した「アダプト・プログラム」の採用により環境整備美化活動の継続性を確保する。行政は広報や必要機材、看板設置等の費用負担などにつき制度を新設する。(全国240の自治体で実施中) ・私有地への不法投棄処理については、「ゴミがごみを生む」悪循環を断ち切るため行政は特例として処分料免除とし、その片づけには周辺など住民が協働して当たる制度を新設する。(藤沢市の事例参照) ・環境(河川を含む)整備美化は行政的には所管が幾つかに分かれており、縦割りの弊害無しといえぬ。これを乗り越える意識、努力が行政・区民双方に求められそう。 これまでの取り組みの中で、その方法の工夫などによる解決策など ・落書き消しは「追いかっこ」となる息の長い活動故、根絶に向け協働での支援を図る。(全国に先進事例あり) 「公園緑地愛護会」制度のより一層の実効化のため、行政は改めて当該地域住民・自治会と協議し協働の徹底を図る。

## 区 民 会 議 委 員 等 か ら の 「 高 齢 者 」 に 関 係 す る 提 案 課 題

	分野	課題名	内 容	現状の区民の取組み	課題の解決策(案)
3		協同活動できる場の提供	<p>・地域住民同士が接する機会が少ないように感じられる。何かあったときや不審者の発見等にも住民同士のつながりが大切であるが、それが薄れているのが現状。 その一因が「場」の少なさではないかと考えられる。</p>	<p>・自主的なサークル等を作って活動積極的な人、活動的な人には向くが、それ以外の人には参加が難しいと思われる。 また、そのようなサークルのリーダーは威圧的である人が多いのも課題。</p>	<p>・耕作放棄地等を地域住民が共同で利用(耕作)できる仕組みづくり ・地域座談会・イベントの開催 ex.子育て、父親、勉強などについての情報交換会 ・区全体の防災訓練～小学校等に集まり、訓練し、その後みんなで食事など～ ・キャリア教育では、ライフ教育(人生の楽しみ方など)についての研修セミナー、勉強会の開催 ・現在行われている活動グループのリーダーに、コミュニケーションのとり方、人の話の聴き方などを行い、より多くの人に参加できるグループになるように援助する。</p>
5		地域福祉の担い手である市民の活動が生きる仕組みづくりがないこと	<p>・高齢者支援、子育て支援、障害者支援等の各分野で市民活動団体、グループは精力的に活動を展開しているが、分野間の連携・協働がほとんどないため、努力に相当する実効性が上がっていない。 さらに組織化されていない若い世代が地域福祉の担い手としては考えられていないことも課題。</p>		<p>・課題解決する方策として”しくみづくり”が平成18年度協働推進事業の福祉計画として位置づけられた。 この計画のヒントになったのは「都市計画マスタープラン麻生区構想区民提案」中、住宅市街地のまちづくり方針で提案されたコミュニティ形成を支援できる地域づくり、特に生活圏を単位とした良好なコミュニティ形成など(P126～130)だということ。 「麻生福祉計画推進会議」の委員のみなさんや市議会議員の方々もそれぞれの立場でモデル地区候補を調査中とのこと。 ・モデル地区での事業を成功させ、そこで得られたノウハウを各地域に広げていくことが期待される。 ただし、この福祉計画に一つかけている視点として、若い世代の活力を仕組みの中に組みいれていないことである。 ・若い人たちが強制ではなく主体的に取り組めるような組織とプログラム作りが必要。 解決の進め方としてステップアップ方式を採用する。 ステップ1)当初計画の推進 ステップ2)若い世代の活力を生かすための制度設計</p>
6		高齢者の安心な生活対策	<p>1 高齢者振り込め詐欺の相談窓口 2 預金、保険相談窓口 3 相続相談窓口 4 その他生活相談窓口</p>	<p>・一部は民生委員、ヘルパーが担っているが、専門的な見地での支援はできないと思う。</p>	<p>・個人のプライバシーに関わる問題であるが、身近に相談する人がいない高齢者の場合には重要な問題である。 ・客観的な見地から意見・提言ができる専門家集団、コンサルティンググループを公の形をとって(実働は民)設定する。 ex.「シルバー110番」と呼称する。</p>

	分野	課題名	内容	現状の区民の取組み	課題の解決策(案)
18		地域に生かす区民の力	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の得意分野を地域活動に。退職者の地域活動への参加。</li> <li>地域の文化活動</li> <li>子育て支援</li> <li>外国人共生社会</li> <li>学校教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こども110番の実施やパトロール隊の結成による地域での子どもの安全確保への取組み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの通学時における安全対策として、シニアボランティアを活用するなど、学校、PTA、町内会、老人クラブなど地域全体での取組みを進める。</li> </ul>
23		市民の交流 (区民課題応募分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>麻生区にはここに生まれ育った人たちが少ない、互いに顔見知りではない。</li> <li>隣に住む人でさえ日ごろ付き合いがなく、どんな人が住んでいるのかよくわからない。</li> <li>地域で生きるようになっても取っ掛かりがなく友達ができない。</li> <li>奥さんたちは気の合う人とだけ付き合い、近所の人にはむしろ敬遠しがちである。</li> <li>自治会や学校が住民の交流を進めるべきだろうがリーダーや賛同者が少ない。</li> <li>一方、各方面の体験を積んでいて能力のある人は多いが隠れてしまっている。</li> <li>これらの人たちに呼びかけて交流に参加できるようにする「仕掛け」が必要である。</li> <li>交流を図ることの効果として助け合いのほか、防犯・防災の実が挙がることもある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>市民と行政の「協働」活動によって地域住民の交流を活発化し、市民の共助と社会貢献、さらに地域の向上を目指すまちづくりに役立てる。それが能力のある人材の活躍を促して本人の生きがいにもつながる「場」の形成が不可欠である。</li> <li>その「場」とは市民利用施設もあるが各地域の小規模な「たまり場」でよい。</li> <li>なかなか地域に溶け込めない人でも買い物帰りにぶらっと立ち寄ってお茶を飲んだり、雑談したり、パソコンをいじったりそんな光景が日常化すればよい。</li> <li>地域の小規模商店街が「シャッター街」になってしまっている。その空き店舗をあるいはスーパーの隅、さらに学校を「たまり場」にあてられないか。交渉したことがあるが一市民ではうまくいかない。</li> <li>行政の力を借りたいところである。</li> <li>若い世代は交流をもとめている。若さで盆踊りを復活させたケースがある。協働の力によって「世代間交流」を強く呼びかけ推進し、「遊び」だけでなく「学び」や「働き」を通じて各世代が互いに学びあう結びつき・交流を進めていきたい。</li> <li>その中から「市民活動」や「社会教育」「生涯学習」が育っていくことを望む。</li> </ul>
29		高齢者の多様な居場所と地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、高齢者に対する施設として、「老人福祉センター」や「老人いこいの家」があるが、必ずしも十分ではないように思われる。</li> <li>高齢者の生活や生き方が多様化している中で、地域社会に積極的に関わりを持ちながら生活していくためには、多様な選択肢と居場所を用意し、高齢者が生き活きと元気に活躍することで、地域社会での存在に眼が向き、その結果として標記の心が響きあう地域づくりに繋がってくるにちがいない。アパート、マンション等の空き室や商店街の空き店舗などを活用したグループ・ホーム的な居場所にし、地域活動や市民活動等の拠点を創る。</li> <li>また、高齢者の地域での居場所の快適性は、様々な人々との出会いや交流を生み出し、地域社会を潤してくれるにちがいない。</li> <li>特に、2007年問題と指摘されている団塊世代の地域での受け皿づくりが急がれる。</li> </ul>		

	分野	課題名	内容	現状の区民の取組み	課題の解決策(案)
30		<p>「高齢者・のんびり・くつろぎ・生きがい広場」の創設(ナイスミドルズ プラザ)</p>	<p>・必要とされる高齢者対策の諸策にはいろいろあるが、まずは基本的なこととして、次の対策が求められているのではなかろうか。</p> <p>・高齢者が、自由に集えて、生きがいを求めているいろいろな活動ができる場(施設・プラザ)を創設する。～地域の廃校・空き商店などの活用。</p> <p>・いわゆる老人会の会議や行事などのように、町会の集会所に目的別、集団別に集まって何かをするといったものではなく、オシャベリをしたくなったとか、将棋や囲碁などをしたくなったから相手が欲しいとかいった、個人的、自主的に、勝手気ままにフラッと寄って暇つぶしができる機会と場が、一部深刻なこととして求められているのではなかろうか。</p> <p>・例えば一人暮らしの人の寄る場として、孤独感や淋しさからの解放や、情報交換等によるボケ防止とか、マイペースの発想や行動を保障できることは意義深いことと考える。</p> <p>・存在感が広がり、人の溜まり場として輪と和が広がれば素晴らしい。</p>		

## 事例3の提案に向けて

### 高齢者に関する課題を捉えていく視点として

- 1 家族からの孤立している人への対応
  - \* 一人住まい
  - \* 家族との不仲 / 不協調
  - \* 伴侶の介護
- 2 暇つぶし・遊び仲間づくりを求める人への対応
- 3 介護必要者への対応
- 4 ボランティア活動を求める人への対応
- 5 要望に応える施設づくりの対応
- 6 シルバー110番（相談コーナー）の設置
  - \* 税・資産等
  - \* 人間関係等

### 課題名

- \* 高齢者の多様な居場所づくりへと地域の交流  
～ 楽しきかな元気・・・時・遊び・人・人生～

### 内容

- 1 高齢者が自由に集えて、生きがいを求めているいろいろな活動ができる場（施設）を設定する。
  - ・ ふらり寄って、また定期的にも、おしゃべりに、情報交換に、学習に、遊びになどと、多様な活動をして、淋しさからの解放やボケ防止、仲間づくりをする。
  - ・ 例えば目的を持って集団的活動をする老人会のようなあり方とは一線を画す。
  - ・ 個人的暇つぶしから発して、同好などの仲間ができ、生きがいが広がり、場の存在も広がって、人の溜まり場になったら素晴らしい。
- 2 区内の、こうした機能を満たしている場（施設）の現状を調査する。
- 3 こうした場（施設）づくりに対する、区内高齢者の意識を調査する。
- 4 場（施設）づくりの方策を検討する。
  - ・ 活用への着眼



## 第5回 麻生区区民会議への調査審議事例の選定に向けて提案

### 「心が響きあう地域づくり」

#### 事例3の提案「快適で活力に満ちた地域環境の形成」

#### ～ 高齢者の居場所と地域活動拠点づくり ～

##### 提案理由 1

平成19年3月22日の第4回区民会議で、次の調査審議事例の選定について諮られた経緯がある。

その中で、神本委員から「高齢者や障害者に優しいまちづくり」についての提案がありましたが、協議する時間がなく宿題となり、企画部会で調整することになりました。

そこで、4月25日に企画部会を開き、事例3の提案に向けて事務局で整理していただいた資料に基づいて協議した。

##### 提案理由 2

麻生区の65歳以上の高齢者は、麻生区統計白書2007によると、平成18年10月1日現在で、26,480人になる。麻生区の人口の16.7%にあたり、年々高齢者人口は確実に増え続けていくと推察されます。高齢者の生き方として、趣味や生きがいを持ち、豊富な経験や技術・資格が地域社会で活かされることが求められています。

そのためには、高齢者が精神的・身体的・社会的に健康で毎日を過ごし、快適で活力に満ちあふれた地域環境を創りだすことが大切です。

現在、高齢者専用の居場所として、「老人福祉センター」と「老人いこいの家」が利用されていますが、使用上の制約等があって高齢者の気持ちに十分に答えきれてない。

高齢者だけのグループとして、老人クラブがあり、川崎市に520の老人クラブがある。麻生区には34のクラブがあり、会員数は1,995人になっている。区内の高齢者人口からすると、7.5%という低い加入率であり、多くの高齢者から敬遠されている。

高齢者の多くは、一般的には、学習・スポーツ・文化・芸術活動や町内会・自治会活動、環境保護や社会福祉活動等ボランティア活動として多岐の社会参加活動に参加しているが、必ずしも多いとはいえないのではなかろうか。

麻生区内の高齢者の実態が十分に把握しきれてないが、高齢者が積極的に地域社会と向かい合っていくために、三間のある生活を身近に創り出すことが緊急の課題であると思われます。

三間とは、仲間のいる生活：孤独、寂しさ、不安からの開放だけでなく、話し相手、学びあう仲間、生きる意欲、世代間交流ができ多種多様な人間関係を創ることができる。次に、時間を有効に使う生活：限られた時間を計画的に、継続的に、地域社会に関わって、質の高い経験・生活をめざす。空間のある生活：限られてくる行動範囲の中で、徒歩圏内の地域の公共施設や学校の空き教室の活用、更には、民間や空き店舗等の活用を図る。

これからは、75歳以上の高齢者の活動を如何にしていくかということを見視野に入れて考えていくことが大切です。

心が響きあう地域づくりに向けて、高齢者が地域社会に満足と充実感を覚え、地域に心地よい空間と居場所があり、地域の中で様々な出番や要請があり、存在感が認められるような地域環境を創造していくことが望ましいと考えます。